

朝のこない夜はない

絶えず続けてゆくことが、
「運」を開く要です。

副山首 鈴木正修

「腹八分目に医者要らず」とは昔から言われることですが、この節食を健康だけにとどめず、運の重要な要素として考察した人物がいます。

江戸時代の観相家・水野南北です。

水野南北は一七五七年の生まれで、ざっと今から二五〇年前の人です。幼名を熊太といい、幼くして両親を失い、叔父に引き取られて育ちましたが、



性格がすさみ、十歳頃から酒を飲み、ケンカばかりしていたといひます。

十八歳の時、ついに酒代欲しさに悪事を働き、投獄されます。しかし、これが南北の人生の転機となります。

牢屋に入つて南北はあることに気付きました。囚人たちの人相が、娑婆で普通の生活を送っている人たちとは明らかに違つてゐることで、これが観相学に関心を持つきっかけになりました。

牢屋を出て南北は、真つ先に大阪で評判の人相見のところに行きました。

人相見は、南北は稀に見る悪相狂相で、剣難の相があり、あと一年の命だと言ひました。助かる方法はないかと尋ねると、出家以外にはないと言ひます。そこで南北は禅寺に行き、入門を請ひます。しかし、寺の和尚は向こう一年間、麦と豆だけの食事を続けたら入門を許そうと条件を出しました。助かりたい一心の南北は耐えて、麦と豆だけの食事を続けました。

一年後、南北は禅寺に向かう前に先ず、人相見のところに行きました。南



北を一目見て、人相見は驚きの声を上げました。剣難の相がきれいに消えていたのです。

こうなつたらもう禅寺に入る必要はありません。南北は観相家を志し、諸国遍歴の旅に出ました。南北二十一歳の時です。

南北は書物を読まず、師にもつかず、実体験を積み重ねて行きます。最初は髪床屋で働いて人相の研究をし、次に風呂屋で働いて、人体の相を観察しました。また次には火葬場の穩亡になつて骨相の研究をするというように、とにかく実践研究によつて観相の技量を磨きました。

そしてだんだん観相家として評判を得るようになりました。しかし、南北には悩みがありました。確かに彼の観相はよく当たるのですが、百パーセントというわけにはいきません。いい人相の人が不幸な目に遭つたり、悪相の人が意外な幸運に恵まれたり、ということが時々あつたのです。この見誤りはなぜなのか、南北はさらに研鑽を続けるのですが、この悩みを克服できない



いまま時は流れ、五十歳になっていました。

ある時、南北はお伊勢詣りに出かけ、五十鈴川のほとりで二十一日間の断食と水垢離の行を行いました。そして夢うつつの中、外宮で豊受大神の声を聞くのです。

「人の運は食にあり」

「そうか」と南北は雷に打たれたように悟ったのです。自分では食事を麦と豆だけにすることで剣難の相を消した。食は人相を変える。食は運命を変える。

これを契機に南北は食のあり方を研究し、節食開運説に到達するのです。それは南北の観相学の完成でもありました。以後、南北の観相は、「百発百中」と言われるまでになり、悪相の人には食のあり方の改善を指導し、多くの人を幸せな運命に導いたと言います。南北自身もこれを実践し、大いに運が開け、名古屋に広大な屋敷を構え、人生五十年の時代に健康に七十八歳ま



で生き、天寿を全うしたと言います。

南北が「万に一つの誤りなし」と言った節食開運説の要点をまとめると、
だいたい十項目になります。

一、食事の量が少ない者は人相が不吉な相であつても、それなりに恵まれた人生を送り、早死にしない。特に晩年は吉となる。

二、食事が常に適量を超えている者は、人相が吉相でも調にくい。手がつれたり、生涯心労が絶えず、晩年は凶となる。

三、常に大食、暴食の者は、たとえ人相が良くても運勢は一定しない。もしその人が貧しければますます困窮し、財産家でも家を傾ける。大食、暴食して人相が凶であれば、死後に入るべき棺もないほど落ちぶれる。

四、常に身のほど以上の美食をしている者は、たとえ人相が吉でも運勢は凶になる。美食を慎まなければ家を没落させ、出世もおぼつかない。まして貧しくても美食する者は、働いても働いても楽にならず、一生苦勞す



る。

五、常に自分の生活水準より低い程度の粗食をしている者は、人相が貧相でもないずれば財産をなし、長寿を得、晩年は楽になる。

六、食事時間が不規則な者は、吉相でも凶となる。

七、小食の者には死病の苦しみがなく、長患いもしない。

八、怠け者でずるく、酒肉を楽しんで精進しない者は成功しない。成功、発

展しようと思えば、自分が望むところの一業を極め、毎日の食事を嚴重に節制し、大願成就まで美食を慎み、自分の仕事を楽しく変えるように努めれば、自然に成功するだろう。

九、人格は飲食の慎みによって決まる。

十、酒肉を多く食べて太っている者は、生涯出世栄達はない。

この節食十項目とともに南北は表裏一体のものとして、日常生活の心がけを説いています。



朝のこない夜はない (201)

特に強調するのは、食事の時に感謝の心を持つことです。

また日の出とともに起き、夜は早く寝ることをすすめています。

さらに、衣服や住まいが贅沢すぎるのは大凶、儉約は吉だが、けちは凶であると言っています。

南北の説くところは、奇をてらつてもいなし、実践困難なものでもありません。

しかし、誰にでも実践できることを確実に実践していくことはなかなか難しいものです。南北は「常に」という言葉をよく使っています。日常的に心がけていくことの大切さの表われだと思っています。日常生活の中で絶えず続けていくには強い意志力が必要になってきます。この意志力こそが、節食開運の要かもしれません。